

私の「コメント」を巡る一連の騒動について（ツイートの編集版）

ライフリンク代表 清水康之

7/4の『自殺対策タスクフォース』会合でプレゼンを行った。その趣旨は、「日本のマスコミの多くが『WHOの自殺報道ガイドライン』に反した自殺報道をしており、そのことが自殺を誘因している可能性がある」というもの。<http://www.lifelink.or.jp/hp/jisatsuhoudou.html#WHO>

会議を傍聴した人なら、あるいはネットにアップした私のプレゼン資料（簡単なコメント付）に目を通した人なら誰でも分かることだが、私は誰か特定の個人の自殺が原因で自殺が増えたなどと言っているのではない。

■清水プレゼン資料（コメント概要付）：http://www.lifelink.or.jp/hp/Library/110704_tf_shimizu.pdf

ところが、その日の朝日新聞ネット版（紙面版でなく）が、私の主張を矮小化してセンセーショナルなタイトルをつけた。「自殺者急増、〇〇〇〇さんの影響」内閣府参与が報告と、書いたのである（実際は、〇〇〇〇に女性タレントの名前が入る）。

私は、こうした事態が起きないようにするため、取材を受ける際には私自身のカギカッコ付のコメントについて、掲載前に確認させてもらうようにしている。自殺というセンシティブなテーマについて語る上では至極当然のことだ。無論、今回もそうした。

しかし、担当記者から事前に送られてきた「確認用コメント」には、記事の見出しのようなものは一切なかった。あったのは、清水氏は会合で「(原因として)考えられるのは、女性タレントの自殺と関連報道。政府としては、メディア各社にガイドラインの策定を呼びかけるべきだ」と指摘した。これだけだ。

愕然としたのは、見出しだけではない。記事の一行目に、**今年5月に自殺者が急増したのは、女性タレントの自殺の影響だった—。清水康之内閣府参与(NPO自殺対策支援センター・ライフリンク代表)が4日、内閣府の自殺対策会議でそう報告した。**とある（しかも、これは未だに修正されていない）。

記者からすれば「カギカッコにはしてない」ということなのかもしれないが、これは明らかに私のコメントとして紹介しているのであり、それを私への事前確認なしに掲載するというのは、報道人としての信義に反しないか。

この2日前(7/2)には、担当記者の依頼に応じて、それなりの時間を割いて直接取材も受けた。その際、様々な資料を提供して、私なりに説明も尽くした。（資料の中には、私が『新聞研究(2007.2号)』に寄せた「いじめ自殺と報道 各社ごとのガイドライン策定が急務～予防のための報道に一層の努力を～」も当然含めてあった。）<http://www.lifelink.or.jp/hp/Library/shinbun-kenkyu2.pdf>

それを、こうした歪んだ形で、しかも『自殺報道ガイドライン』に反した形で報道されたのだから、私としては当然納得がいかない。また私のこと云々以上に、遺族や関係者の方々への影響が心配でならない。。。

その後、担当記者に私が電話で抗議をしたため、見出しや本文から女性タレントの名前が消えたりという変化はあった。だが、情報はすでに拡散されてしまっており、また問題の本質は依然として改善されていない。「報道の影響より女性タレントの自殺そのものに私がフォーカスしていた」という内容になったままである。

朝日新聞には知り合いの記者も多いし、これまで自殺対策に資する報道を多くしてもらってきたことへの恩義も感じている。ただ、だからと言って今回のことをこのまま見過ごすことはできない。より理解のある自殺関連報道を今後していただくためにも、ライフリンクとして対応を取っていかうと考えている。以上

《補足》5月の急増に関しては、センセーショナルな自殺報道が、表面張力のようにしてやっとのことで「生きること」に留まっていた若年女性たちの背中を押してしまった、というのが私の見方だ。自殺報道だけが悪いと言っているわけでもない。もっと根っこにある問題にも対策を講じていく必要があるのは、当然のことである。